



廃材を使ったリヤカーを出身中学校に寄贈した三間分校の岡さん(左)と山田さん

後輩へ贈る力作リヤカー

北宇和高3年生2人 出身中三間分校

宇和島市三間町戸雁の北宇和高三間分校の3年生2人が、廃材を使って製作したリヤカーをそれぞれの出身中学校へ寄贈した。中学時代に2018年の西日本豪雨災害を経験し、今春に社会へと巣立つ2人は

読もう!



「後輩たちに役立ててほしい」と願っている。製作したのは農業機械科の山田怜央さん(17)と岡侑弥さん(18)。同分校では、東日本大震災が起きた11年にも被災した福島県の小中学校へリヤカーを贈っており、取り組みを知った2人が今回、豪雨災害の復興を願って製作を決めた。リヤカーは学校で使わなくなったパイプ椅子を解体して溶接、塗装した。全長2・0メートル、幅0・75メートルで、荷物は約150キログラムまで載せることができ、両側のタイヤは小さめを選んで車高を抑え、小回りが利きやすくなった。

22年6月から約半年かけて製作。部材の切り出しを担当した岡さんは「パーツに分解した後、部位の硬さの違いを慎重に確認した」と振り返り、約50カ所を溶接した山田さんは「薄い部分もあって、溶接中に穴が開いてしまうなど大変だった」と苦労を語った。寄贈は13日、岡さんの出身校の吉田中学校(同市吉田町鶴間新)には、同校スクールカラーの空色に塗装したリヤカー1台を贈った。新城裕志校長は「思いのこもったリヤカーで、とてもありがたい。清掃活動などで大切に利用させてもらう」と感謝を述べた。

続いて山田さんの出身校の松野中学校(松野町延野々)を訪れ、リヤカーを贈った。

(長尾翼)